

「新潟市子ども読書活動推進計画」に基づく各課・機関の取組

◇子どもの読書活動を推進するための方策

		平成23年度の取組結果		平成24年度の取組	
①保護者への働きかけ		区分	課・機関名	内容	
1 家庭	(保育課) ○保育園から保護者に対して、保育園図書貸し出し等の機会を活用し、読み聞かせによる絵本の楽しさ、豊かさを伝えたり、園行事や園の便り等の機会を捉えて啓発を行った。	継続	保育課	○保育園図書貸し出しの機会を活用し、親子で絵本を選んだり、参観日などを通して親子一緒にみることで絵本の良さを実感できるような働きかけを各園で行う。	
	(こども未来課) ○市民協働で運営しているホームページ・携帯サイト「にいがたっ子ひろば」で子どもの読書活動につながる情報を掲載し、保護者への周知・働きかけを行った。(掲載件数H23.4～H24.3:104件)	継続	こども未来課	○市民協働で運営しているホームページ・携帯サイト「にいがたっ子ひろば」で子ども読書活動の推進について適宜情報を掲載する。	
	(各区健康福祉課) ○股関節検診と1歳6か月検診・3歳児検診時に図書館ブックリスト「はじめての絵本」を配布し、読み聞かせの啓発普及を計画通り実施した。(年間511回) ○地域保健福祉センターでは自主事業による「親と子のフリースペース」に年3回、「スマイルキッズ」に年2回、ボランティアグループ「絵本の会がらがらどん」による絵本の読み聞かせなどを計画通り実施し、保護者に読み聞かせの大切さを体感してもらった。 ○児童センター、子育て応援ひろば等では読み聞かせを実施する際、同伴の保護者にも読み聞かせの大切さを伝えるなど、計画通り実施した。(各施設月1～2回実施)	継続	各区健康福祉課	○股関節検診と1歳6か月健診・3歳児健診時に図書館ブックリスト「はじめての絵本」を配布し、読み聞かせの啓発普及を行う。(年間519回) ○地域保健福祉センターでは自主事業による「親と子のフリースペース」に年3回、「スマイルキッズ」に年2回、ボランティアグループ「絵本の会がらがらどん」による絵本の読み聞かせなどを実施し、保護者に読み聞かせの大切さを体感してもらう。 ○児童センター、子育て応援ひろば等では読み聞かせを実施する際、同伴の保護者にも読み聞かせの大切さを伝える。(各施設月1～2回実施)	
	(生涯学習課) ○図書館への関心が高まるよう、図書館主催事業を体験学習情報ナビに掲載して、周知に努めた。 ○大畑少年センターや若者支援センターにおいて、図書館のBメールや各種チラシ等を設置し、啓発に努めた。	継続 新規	生涯学習課	○大畑少年センターや若者支援センターにおいて、図書館の情報紙等を設置し、子どもたちやその保護者への啓発に努める。 ○子ども読書活動の推進について、青少年育成団体等への啓発に努める。	
	(公民館) ○乳幼児期家庭教育学級の講座の中で、「絵本」に関する時間を設けた。(8館)	継続	公民館	○乳幼児期の家庭教育学級の講座の中で、「絵本」に関する時間を設ける。	
②ブックスタート事業の実施		区分	課・機関名	内容	
(保健所健康増進課・各区健康福祉課) ○ブックスタート関係者会議に出席し、協力体制について確認した。 ○母子健康手帳にブックスタートの意義を掲載し、啓発を行った。	継続	健康増進課 各区健康福祉課	○ブックスタート関係者会議に出席し、協力体制について確認する。 ○母子健康手帳にブックスタートの意義を掲載し、啓発を行う。		
(図書館) ○ブックスタートは1歳誕生歯科健診が行われる17会場で198回、6,111名に実施した。 ○ブックスタート開始を記念して、10月10日に細谷亮太氏(聖路加国際病院副院長)の講演会を開催した。 ○ブックスタートの評価のための外部委員会は設けず、来年度5つの図書館協議会の中で評価を行う。 ○ブックスタートボランティア養成講座(2回連続講座)を中央・新津・白根・西川で各1回ずつ、ステップアップ講座を1回実施した。	新規 新規 新規 継続	図書館	○平成24年度は約6,500人を対象に1歳誕生歯科健診が行われる17会場で、ブックスタートを203回実施予定。 ○ブックスタートボランティアの意識向上とスキルアップを目的に、ブックスタートボランティアステップアップ講座を実施する。 ○5つの図書館協議会で行う図書館評価の中で、ブックスタート事業の評価を行う。		

1 家庭	③図書館の充実	区分	課・機関名	内容
	(図書館) ○乳幼児向けの「おはなしのじかん」の充実に努めた。 ○乳幼児向けコーナーの設置・拡充、ブックスタートコーナーやおすすめ絵本リスト紹介コーナーの設置、ベビーカーの設置など、乳幼児の利用拡大に向けた取り組みを行った。 ○中央図書館のこどもとよかんで、乳幼児が親しみをもちやすいような掲示や飾り付けを2回行った。	継続	図書館	○乳幼児を連れた保護者が利用しやすい図書館づくりに努める。 ○子どもを持つ保護者の図書館利用促進に向け、子育て支援コーナーを拡充・充実させる。 ○「おはなしのじかん」の内容の充実に努める。

2 保育園・幼稚園	①保育園・幼稚園への啓発	区分	課・機関名	内容
	(保育課) ○保育園におけるボランティア活動の調査を実施し、リストを作成し配布した。 ○園行事や園だより等を通して、啓発や情報提供を行うよう指導した。 ○図書館の団体貸出の活用や年齢に応じた絵本のリストなどについて情報を園長会等を通じて提供した。	継続	保育課	○保育園における読み聞かせボランティアを積極的に活用する。 ○園行事や園だより等を通して、啓発や情報提供を行うよう指導する。
	(こども未来課) ○図書館が発行する絵本のブックリスト、子どもと読書に関する啓発リーフレット等や、保護者向け講演会の講師派遣など、図書館が行っている支援について、新潟市私立幼稚園協会へ文書で情報提供を行い、同協会から市内43の私立幼稚園にその旨周知された。	継続	こども未来課	○図書館が発行する絵本のブックリスト、子どもと読書に関する啓発リーフレット等や、保護者向け講演会の講師派遣など、図書館が行っている支援について、新潟市私立幼稚園協会へ情報提供を行う。
	(学校支援課) ○園訪問や園長会等で、読み聞かせ等幼児期に本に親しませることの重要性を保護者に伝えるよう依頼するとともに、絵本の充実に関する現状について聞き取り、指導・助言を行った。	継続	学校支援課	○園訪問や園長会等で、読み聞かせ等幼児期に本に親しませることの重要性を保護者に伝えるよう依頼するとともに、絵本の充実に関する現状について聞き取り、指導・助言を行う。
	(図書館) ○児童や親子を対象とした事業のチラシを、各保育園や幼稚園に年2回配付し情報提供を行った。 ○園向けの図書館利用案内を作成し送付した。 ○園の要請により、園で開催する保護者向け絵本講座に講師を派遣した。(7回)	継続	図書館	○図書館が行う事業について各保育園や幼稚園に情報提供を行う。 ○図書館利用案内などで図書館の施設利用や読み聞かせ等の利用を促す。 ○園で開催する保護者やボランティア向けの絵本講座に講師を派遣する。
	②地域読書推進事業	区分	課・機関名	内容
(保育課) ○各施設に絵本を配付し、貸出・検索システムを稼働させた。 ○運用開始：平成23年6月から ○参加施設数：保育園180園、幼稚園36園、子育て支援センター34施設 計250施設 ○配布総冊：63,350冊 ○貸出実績(延貸出冊数)：33,901冊	拡充	保育課	○「地域子ども絵本ふれあい事業」において、各施設に絵本を配付し、貸出・検索システムを稼働させているが、借りにくいことからノートでの貸し出しも並行して活用しやすくする。	
③職員研修	区分	課・機関名	内容	
(保育課) ○保育課主催で、絵本に関する保育園合同研修会を万代市民会館において、10月4日・10月18日の計2回実施し、参加者は288名であった。 ○区健康福祉課主催で絵本に関する保育園研修会を11月16日に実施し、参加者は45名であった。	継続	保育課	○絵本に関する研修を保育課主催で2回、秋葉区健康福祉課で1回開催予定。	
(こども未来課) ○図書館が行っている研修企画への支援や講師派遣等の支援についての情報を、新潟市私立幼稚園協会へ提供し、同協会から市内43の私立幼稚園にその旨周知された。	継続	こども未来課	○図書館が行っている研修企画への支援や講師派遣等の支援についての情報を、新潟市私立幼稚園協会へ提供し、幼稚園での職員研修実施を働きかける。	

2 保育園・幼稚園	(学校支援課・総合教育センター) ○市立幼稚園の要請により、講座や研修の企画や講師選定・派遣等についての支援を行った。	継続	学校支援課 総合教育センター	○市立幼稚園の要請により、講座や研修の企画や講師選定・派遣等についての支援を行う。
	(図書館) ○園の要請により、講師派遣や講師紹介を行った。(3回)	継続	図書館	○園の要請により、講師派遣や講師紹介を行う。

①教職員研修		区分	課・機関名	内容
3 学校	(教職員課) ○校長会の理事会を通して、子どもの読書活動の推進について啓発を行った。	新規	教職員課	○校園長会などを通して周知を図り、子どもの読書活動推進計画の実効性を高める。
	(総合教育センター) ○「読書活動の充実」研修と題して、10月12日(水)に文部科学省の水戸部修治調査官を講師に招き、講義と演習を行った。受講者は、「本のショーウィンドウ」をつくる活動を通して、「目的をもった読書の大切さ」と「付けたい力と読書活動の関係性」について深く学ぶことができた。	継続	総合教育センター	○「読書活動の充実」研修と題して、10月2日(火)に新潟大学の足立幸子准教授を講師に招き、講義と演習を行う。
	(教育総務課・学校支援課) ○蔵書管理システム研修を実施(8月23日・24日ステップアップ研修、11月2日導入時研修、2月28日・29日新年度に向けた研修)	継続	教育総務課 学校支援課	○平成22年度から学校図書館蔵書管理システムの導入を進めていることから、導入校向けに操作方法等の研修を実施
	(学校支援課・総合教育センター) ○授業研修において、言語活動の充実という観点から、読書力を高める指導を重視することを指導した。 ○市小研・中教研の図書館部の依頼により、研修の支援を行った。	継続	学校支援課 総合教育センター	○授業研修において、言語活動の充実という観点から、読書活動の推進を図るように指導する。 ○市小研・中教研の図書館部の依頼により、研修の支援を行う。
	(総合教育センター・図書館) ○白根図書館(学校図書館支援センター)と総合教育センターの共催事業として、教諭と学校司書の合同研修「学校図書館活用研修会」を7月27日に開催した。 ○西川図書館(学校図書館支援センター)と総合教育センターの共催で、「教諭と司書連携研修会」を8月22日に開催した。	継続	総合教育センター 図書館	○豊栄図書館(学校図書館支援センター)と総合教育センターの共催事業として、教諭と学校司書の合同研修「学校図書館活用研修会」を7月24日(火)に開催する。 ○西川図書館(学校図書館支援センター)と総合教育センターの共催で、「教諭と司書連携研修会」を8月20日(月)に開催する。
②読書環境の整備		区分	課・機関名	内容
	(教育総務課) ○H23年度は29校に学校図書館蔵書管理システムを導入した。(昨年度との合計131校に導入)	継続	教育総務課	○39校に学校図書館管理システムを導入(今年度で全校に配置完了)
	(学務課) ○H23年度末までに全小中学校が学校図書館図書標準を達成するよう、国の交付金を活用した学校図書館整備事業を行い、学校図書館図書の充実を図った。その結果、3月末までに小中学校全校の学校図書館図書整備率100%を達成する見込み。	継続	学務課	○国の交付金を活用した学校図書館整備事業を行った結果、平成23年度末までに小中学校全校の学校図書館図書整備率100%を達成する見込み。平成24年度も引き続き、図書費及び図書蔵書冊数を調査・管理しながら学校図書館図書標準の維持に努める。
	(施設課) ○校舎改築時に必要な広さの学校図書館と併せ司書コーナーの整備を進め、新関小学校、荻川小学校は4月に供用を開始した。 ○校舎改築工事により学校図書館の整備を行っている。(下山小、沼垂小、笹口小、金津小、新津第一中、臼井中、岩室中)	継続	施設課	○校舎改築時に必要な広さの学校図書館及び司書コーナーの整備を進める。(供用開始予定:沼垂小、臼井中/建設中:下山小、笹口小、金津小、新津第一中、岩室中)

<p>(総合教育センター) ○子どもたちの読書の実態をより正確に捉え、読書活動推進に生かしてもらうために、1か月で読んだ本の冊数の選択肢を<5冊以上・3~4冊・1~2冊・0冊>→<10冊以上・7~9冊・6~4冊・3~1冊・0冊>と変えた。そして、その結果を市内各図書館に配布し、伝達した。 ○今年度は、「確かな学力の向上」と「授業改善」に絞って協議したため、中学校区における読書推進策については協議しなかった。ただし、読書については自校で分析できるように「分析シート」を提示し、取組を促した。また、「増えています！読書を楽しむにいがたっ子！」と題して、これまでの数値の変化と、読書活動推進の取組を「にいがた共育通信第21号(6月30日発行)」に寄稿した。</p>	<p>継続</p>	<p>総合教育センター</p>	<p>○子どもたちの読書の実態をより正確に捉え、読書活動推進に活かしてもらうために、今年度も「生活・学習意識調査」を12月初めに実施し、1か月で読んだ本の冊数を調査する。そして、その結果を全小中学校と市内各図書館に配布し、伝達する。</p>
<p>(学校支援課) ○学校支援課で作成した教育課程編成資料において、学校図書館の活用等の内容を位置付け、自校化の資料とするよう指導した。 ○学校訪問、校長会、教頭会、各種研修会を通して、家庭学習習慣確立の取組と併せて家庭での読書について保護者への啓発を図るよう指導した。 ○市立高校において、学校訪問、校長会、各種研修会を通して、高校生の読書力増進に向けた取組の推進と図書館の環境整備についての指導を行った。 ○総合教育センターが行った読書量調査の結果を家庭学習習慣確立のリーフレットに記載し配付した。</p>	<p>継続</p>	<p>学校支援課</p>	<p>○学校支援課で作成した教育課程編成資料に学校図書館の活用等の内容を位置付け、自校化の資料とするよう指導する。 ○学校訪問、校長会、教頭会、各種研修会を通して、家庭学習習慣確立の取組と併せて家庭での読書について保護者への啓発を図るよう指導する。 ○市立高校において、学校訪問、校長会、各種研修会を通して、高校生の読書力増進に向けた取組の推進と図書館の環境整備についての指導を行う。 ○総合教育センターが行った読書量調査の結果を家庭学習習慣確立のリーフレットに記載し配付する。</p>
<p>(図書館) ○「学校貸出図書搬送事業」の搬送対象校を市立小・中・高および特別支援学校に加え、市内県立高校、私立高校に拡大した(190校→219校)。併せて同時に貸出できる冊数を100冊から150冊に増やし、貸出期間の延期(予約がない資料の2週間延期)を試行した(H23.6.23~H24.2.29)結果、小・中・高校それぞれからの利用があり、便利であるとの声が寄せられている。</p>	<p>拡充</p>	<p>図書館</p>	<p>○「学校貸出図書搬送事業」(平成23年度に対象校・貸出冊数・貸出期間を拡充)を継続実施。 ○学校貸出セット「オレンジBOX」約1400冊の学校へのセット貸出を開始する。(7月から)(平成23年度学務課・小学校管理運営費)</p>
<p>③学校図書館支援センターの整備</p>	<p>区分</p>	<p>課・機関名</p>	<p>内容</p>
<p>(教育総務課) ○学校図書館支援センターの活動全体を審議するため、学校図書館支援センター運営検討委員会を2月28日(火)に開催した。(中央図書館学校図書館支援センター運営協議会とあわせて開催)</p>	<p>継続</p>	<p>教育総務課</p>	<p>○学校図書館支援センター全体のあり方や活動内容を審議するため、学校図書館支援センター運営検討委員会を開催</p>
<p>(図書館) ○4つの支援センターで、市内全域の小中学校の学校図書館の活動への支援を行った。 ○各学校図書館支援センターの取組を審議するため、運営協議会を年2または3回開催した。 ○4つの支援センター間で、意見交換・相互理解・事業調整を図るため、合同会議と担当者会議をそれぞれ4回開催した。</p>	<p>拡充</p>	<p>図書館</p>	<p>○4つの支援センターで、市内全域の小中学校の学校図書館の活動への支援を行う。担当区の変更(24年度から江南区を中央図書館に代わり豊栄図書館が担当する) ○各支援センターごとに活動内容や取組を審議するため、運営協議会を開催予定。(年2または3回) ○4つの支援センター間で、意見交換・相互理解・事業調整を図るため、合同会議と担当者会議をそれぞれ4回開催予定。</p>
<p>④読書活動に障がいがある子どもへの支援</p>	<p>区分</p>	<p>課・機関名</p>	<p>内容</p>
<p>(図書館) ○中央図書館では、「24時間テレビ」チャリティー委員会から、障がい者サービス用物品(拡大読書機1台・DAISY再生専用機3台・LLブック20冊・子ども向け大活字本31タイトル54冊)の寄贈を受け、障がい者サービスが充実した。 ○西川図書館では、LLブックを29冊そろえた。 ○中央図書館だけで実施していた「対面朗読サービス」を、12月から豊栄・新津・白根・西川図書館でも開始した。(拡充) ○「世界のバリアフリー絵本展」は企画団体である「JBBY世界のバリアフリー絵本展実行委員会」の都合により、開催できなかった。(H24年度実施予定)</p>	<p>継続 継続</p>	<p>図書館</p>	<p>○「世界のバリアフリー絵本展」を企画団体「JBBY世界のバリアフリー絵本展実行委員会」との共催で実施する。(12月実施予定)</p>

⑤地域との連携		区分	課・機関名	内容
3 学 校	(教育総務課) ○全市で、62校が夏休み中に学校図書館の地域開放を行った。(H22年度は35校)	継続	教育総務課	○実施可能な小学校で夏休みの学校図書館の地域開放を実施
	(地域と学校ふれあい推進課) ○学校のニーズに応じて、地域教育コーディネーターが読み聞かせボランティアや図書館整備ボランティアを紹介した。 ○読み聞かせボランティアが入った回数は、平成22年度の812回に対し、平成23年度は1,674回であり、倍増した。(平成23年度地域と学校パートナーシップ事業実施校の平均回数:小学校15.3回、中学校4.6回) ○読み聞かせボランティアのべ人数は、平成22年度の3,094人に対し、平成23年度は4,938人であり、約60%の増であった。 ○電算化に伴う蔵書整理やバーコード貼り、図書の修繕等で多くのボランティアの支援を得た。 ○中学校区内の小・中学校間でボランティアを紹介し合うなど、連携した取組が多くみられた。	継続 継続 新規	地域と学校 ふれあい推 進課	○地域と学校パートナーシップ事業実施校(158校)において ・(新規校)学校図書館ボランティアのニーズの有無を把握する。 ・ニーズがある学校において、地域教育コーディネーターがボランティアを紹介する。 ・中学校区内で学校図書館ボランティアについての情報を共有する。
	(図書館) ○小学校が実施する「絵本の読み聞かせボランティア研修会」に職員を10回派遣した。(講師紹介はなかった)	継続	図書館	○学校の要請により、「絵本の読み聞かせボランティア研修会」に講師派遣や講師紹介を行う。
⑥学校図書館関係課の連携		区分	課・機関名	内容
	(図書館) ○教育委員会内6課3機関で構成する「学校図書館関係課・機関連絡会議」を7月7日と3月15日に開催し、学校図書館支援について連携を深めた。	継続	図書館	○「学校図書館関係課・機関連絡会議」を年2回開催し、学校図書館支援について連携を深める。

(1) 図書館				
①施設・設備・蔵書の充実		区分	課・機関名	内容
4 地 域	(図書館) ○7月1日に西堀ローサ内に「ほんぼーとまちなかサテライト」を、9月20日に東区に「東区プラザ図書室」を開室した。また、「アルザ新潟情報図書室」を10月にオンライン化し、9月1日に巻図書館を開館し、市内19の図書館と4つの図書室をオンライン化し、利用者の利便性を図った。また、図書館のPRスペースとして7月1日に開室した「ほんぼーとまちなかサテライト」は、1日平均55人が利用した。 ○中央・豊栄・白根・西川図書館に「学校図書館支援センターコーナー」を設置し、市立小学校使用教科書と国語関連図書約400冊を学年ごとにそろえた。	拡充	図書館	○10月6日に亀田図書館を江南区文化会館内に移転開館し、江南区の中心図書館と位置付ける。子ども図書室と「おはなしのへや」を含め、規模は約900㎡(現施設の約4.5倍)の広さで、約5万5千冊(現所蔵冊数の約2.8倍)が収容可能となる。 ○中央・豊栄・白根・西川図書館に「学校図書館支援センターコーナー」を設置し、市立小中学校使用教科書や国語関連図書及び学校図書館関連図書を揃える。
	②子どもと本を結ぶ事業の開催		区分	課・機関名
	(図書館) ○全館で、職員及び読み聞かせボランティアによる「おはなしのじかん」を1,285回実施した。 ○子どもの読書活動を進めるため、ボランティアグループとの共催事業を23回開催した。 ○「るーぽん」の紹介カードを4種類作成し、読書週間事業等に活用した。また、「るーぽん」のシールを1,600枚作成し冬休み事業に活用した。 ○保護者向けの保育付き絵本講座を2回開催した。	継続	図書館	○全館で、職員及び読み聞かせボランティアによる「おはなしのじかん」を実施する。 ○子どもの読書活動を進めるため、ボランティアグループとの共催事業を積極的に開催する。 ○ほんぼーと開館5周年記念事業の一環として、ほんぼーとのこどもとじょかんの名誉館長である黒井健さんに「本と親子」をモチーフにした原画制作を依頼する。あわせて黒井健さんのこどもを対象としたワークショップを開催する。 ○保護者向けの保育付き絵本講座、孫を持つシニア向けの絵本講座(保育なし)を開催する。

③ティーンズ世代へ	区分	課・機関名	
(図書館) ○中学・高校に対して団体貸出(8,531冊)、職場体験の受入(232人)を行った。 ○ティーンズ向けの広報誌を9回作成し、中学・高校に配布した。 ○ティーンズ向けの読書会を2回開催し、6人が参加した。	継続	図書館	○中学・高校に対して団体貸出、職場体験の受入等を行う。 ○ティーンズ向けの広報誌を作成・配布する。
④学校や保育園などへの支援	区分	課・機関名	内容
(図書館) ○職場体験を77回232人、図書館見学を81回2,615人受け入れた。 ○園や子育て支援センターで開催する絵本の講座に、講師として図書館司書を7回派遣した。 ○図書館が推薦する絵本のブックリストを改訂し、全館で配布した。 ○小中学校や放課後児童クラブ等へリサイクル図書を1,245冊配布した。	継続	図書館	○職場体験や図書館見学を積極的に受け入れる。 ○園や子育て支援センターで開催する絵本の講座に講師を派遣する。 ○図書館が推薦する絵本のブックリストや小学生向けのブックリストを全館で配布する。 ○小中学校や放課後児童クラブ等へリサイクル図書を配布する。
(図書館) ○読み聞かせボランティア養成講座を区を中心図書館で4回実施し、34人のボランティアを養成した。 ○読み聞かせ等ボランティアの交流会を3回実施した。 ○読み聞かせ等ボランティア自主研修会と共催で7月24日と11月23日に研修会を実施した。	継続	図書館	○読み聞かせボランティア養成講座を中心図書館で実施する。 ○読み聞かせ等ボランティアの交流会を開催する。 ○読み聞かせ等ボランティア自主研修会と共催で研修会を実施する。
(2) 公民館・地域子育て支援センター等			
①公民館事業等の充実	区分	課・機関名	内容
(文化政策課) ○新津美術館で世界の絵本作家展Ⅲ「絵本の世界へ旅しよう」を7月23日～10月10日に開催し、海外作家6人国内作家5人の絵本原画約200点を展示した。観覧者数:9,516人 ○関連イベントの読み聞かせ8回実施し、計228人が参加した。	継続	文化政策課	○新津美術館で「さとうわきこ絵本原画展 みんなだいすいきばばあちゃん」を9月1日～10月8日に開催し、さとうわきこの初期から最新の絵本まで12作品の全場面を展示する。また、巨大な「ねぶた」作品や石やトレーの絵付け作品なども展示する。(展示点数:約230点) ○関連イベントとして、ボランティアによる絵本の読み聞かせを実施予定。
(障がい福祉課) ○市立ひしのみ園(知的障がい児の通園施設)での日中活動において、季節に応じた絵本、生活に関する絵本など、繰り返し読み聞かせを実施した。子どもたちは絵本に集中して、絵や言葉を楽しむことができたし、次に何が出てくるか期待して待つ様子が見られた。	継続	障がい福祉課	○市立ひしのみ園(福祉型児童発達支援センター)での日中活動において、季節に応じた絵本、生活に関する絵本、言葉遊びのできる絵本など、繰り返し読み聞かせを実施。
(国際課) ○8月27日(土)、新潟市国際交流協会によるキッズフェスティバルをクロスパルにいがたで開催した。新潟市国際交流員が主体となり、プログラムの一つとして5カ国の外国の絵本の読み聞かせを行った(英語、中国語、韓国語、ロシア語、フランス語)。絵本の会どんぐりが先に日本語の絵本を読み聞かせ、次に翻訳されている絵本を読んだ。参加した子どもたちは発音の違いがわかり、その国の文化に触れることもできた。	継続	国際課	○7月末、8月末に各1日幼稚園・小中学校の夏休みを利用して、国際交流員が主体となり、外国語の絵本の読み聞かせとその国の手遊びを行う。1日5か国では子供たちが飽きる恐れがあること、言語の違いをより鮮明に理解してほしいため7月は3言語、8月は2言語と、2日に分けることとした。会場はクロスパルにいがた保育室。1ページごとに日本語→外国語を読むといったスタイルにする。交流員と接すること、外国の絵本を聞くこと、手を使っての数字の教え方の違いなど、子供たちは外国の文化を理解するきっかけとなる。
(各区健康福祉課) ○児童センター、子育て応援ひろば等では読み聞かせを実施する際、同伴の保護者にも読み聞かせの大切さを伝えた。(各施設月1～2回実施)	継続	各区健康福祉課	○児童センター、子育て応援ひろば等では読み聞かせを実施する際、同伴の保護者にも読み聞かせの大切さを伝える。(各施設月1～2回実施)

4 地 域	(公民館) ○「子育てサロン事業」で、ボランティアによる絵本の読み聞かせの時間を設けた。(6館) ○ボランティア団体の協力による「おはなしのせかいへ」等、絵本の読み聞かせ事業を実施した。(6館)	継続	公民館	○親同士の交流や情報交換の場である「子育てサロン事業」等で、ボランティアによる絵本の読み聞かせの時間を設ける。 ○ボランティア団体の協力による「おはなしのせかいへ」等、絵本の読み聞かせ事業を実施する。
	②蔵書の充実や事業への支援	区分	課・機関名	内容
	(こども未来課) ○春の読書週間に合わせて、ポスターを各放課後児童クラブ(ひまわりクラブ等)に掲示し、情報提供を行った。 ○一部の放課後児童クラブ(ひまわりクラブ等)に読み聞かせボランティアを招いて、本に触れる機会を持たせた。	継続	こども未来課	○子どもと読書に関する啓発リーフレットの設置やポスターの掲示をし、情報提供を行う。
	(地域と学校ふれあい推進課) ○地域教育コーディネーターや子どもふれあいスクール運営主任の全体研修の場では紹介はしなかったが、各校において学校図書館支援センターとの連携が推進された。	継続	地域と学校ふれあい推進課	○地域教育コーディネーター研修会や子どもふれあいスクール運営主任研修会で、図書館の取組を紹介する。
(保育課)(再掲) ○各施設に絵本を配付し、貸出・検索システムを稼働させた。 ○運用開始:平成23年6月から ○参加施設数:保育園180園、幼稚園36園、子育て支援センター34施設 計250施設 ○配布総冊:63,350冊 ○貸出実績(延貸出冊数):33,901冊	拡充	保育課	(再掲) ○「地域子ども絵本ふれあい事業」において、各施設に絵本を配付し、貸出・検索システムを稼働させているが、借りにくいことからノートでの貸し出しも並行して活用しやすくする。	
③ボランティアの活動	区分	課・機関名	内容	
(公民館) ○「子育てサロン」における絵本の読み聞かせ事業について、ボランティア団体と企画会議を開催し、協働で実施することにより、ボランティア活動を支援した。(2館)	継続	公民館	○ボランティア団体と企画会議を開催し、協働事業を実施するなど、「子育てサロン事業」等におけるボランティア活動を支援する。	

◇計画推進のために

1 数値目標

指標項目	担当課	平成20年度末(実績値)	平成23年度末(見込み)	平成26年度末(目標値)
① 学校図書館図書標準を達成している小中学校の割合(達成校率)	学務課	小学校 61% 中学校 54%	小学校 100% 中学校 100%	小学校 100% 中学校 100%
② 市立図書館における小中学生(7歳~15歳)への本の貸出冊数	中央図書館	460,000冊	500,000冊	531,000冊
③ 市立図書館における児童書の貸出冊数	中央図書館	1,056,000冊	1,099,900冊	1,220,000冊

2 広報・啓発

平成23年度の取組		平成24年度の取組	
①子どもの読書活動についての啓発	区分	課・機関名	内容
(図書館) ○図書館のホームページ内「新潟市子ども読書活動推進計画」の項目で、市の取組を紹介した。 ○「ほんぼーとまちなかサテライト」内に、おすすめの絵本120冊と、絵本のブックリストを設置した。 ○ブックスタートについて市民への周知を図るため、股関節検診実施時のパンフレット配布を健康福祉課に依頼した。また、区だよりや「にいがた共育通信」、「クルール」(子育て情報誌)に記事掲載し、テレビ・ラジオ等のマスコミを通じての広報にも努めた。 ○ブックスタート開始を記念して、10月10日に細谷亮太氏(聖路加国際病院副院長)の講演会を開催した。(再掲) ○4つの学校図書館支援センターの利用案内を各学校に送付するとともに、教育事務所や区の校長会等でセンターの取組みをPRした。	継続 新規 継続 新規 拡充	図書館	○6月1日に開催する「新潟市教育フォーラム2012読書が育む子どもの未来～家庭・学校・地域で～」において「新潟市子ども読書活動推進計画」の周知を図る。 ○図書館のホームページで「新潟市子ども読書活動推進計画」の取組を紹介する。 ○ブックスタートについて周知を図るため、関係機関や報道機関への広報に努め、図書館のホームページにも掲載する。 ○4つの学校図書館支援センターの利用案内や学校貸出セット「オレンジBOX」の貸出案内を各学校に送付するとともに、教育事務所や区の校長会等でセンターの取組をPRする。
②文学創作活動の啓発	区分	課・機関名	内容
(文化政策課) ○「にいがた市民文学」で18歳以下を対象とした「青春の部」を継続実施し、昨年よりも9作品多い176作品の応募があった。	継続	文化政策課	○「にいがた市民文学」で18歳以下を対象とした「青春の部」を継続実施し、若年層からの応募を呼びかけるとともに、より広く文芸に興味を持ってもらうため、初心者向けの創作教室を開催する。

3 推進体制

平成23年度の取組		平成24年度の取組	
①計画の推進組織の設置	区分	課・機関名	内容
(図書館) ○新潟市子ども読書活動推進計画庁内推進会議を7月7日と3月15日に開催し、新潟市の取組みについて情報交換を行った。 ○「学校図書館関係課・機関連絡会議」を7月7日と3月15日に開催し、学校図書館支援について連携を深めた。(再掲)	継続	図書館	○「新潟市子ども読書活動推進計画庁内推進会議」を2回開催する予定。 ○「学校図書館関係課・機関連絡会議」を2回開催する予定。